



奈良祭時記
 県内の無形民俗
 文化財の保存活動
 を紹介！
 Vol.13

金峯山寺の蓮華会(蔵王堂の蛙とび)

特集 県民ニュース

奈良を知ろう

暮らしに役立つ

おしらせ

吉野町 金峯山寺 蓮華会と蛙とび行事

7月7日の朝、役行者が産湯を使ったとされる大和高田市の捨篠池で地元の人々が舟に乗り、蓮を刈り取ることから行事は始まります。その蓮を金峯山寺の行者が受け取り、道中の大淀町などで献花しつつ、吉野山を目指します。昼過ぎにロープウエーの吉野山駅で、蓮を運ぶ一行と青蛙に乗せた太鼓台が合流し、太鼓と独特のかけ声で金峯山寺蔵王堂までをにぎやかに練り歩きます。

15時頃、蔵王堂前に到着し、「蛙とび」が始まります。ドラの音のなか青蛙が左右の導師の前に飛んで進み、お経を聞き、最後に大導師の授戒によって青蛙の面を外し、人の姿に戻ります。

翌8日の朝3時から、勤行をするため、徒歩で12時間程度かけて大峰山寺(天川村)を目指し、毎年1000人を超える行者や一般の人が参加します。

歴史と見どころ



蛙とび行事は、延久年間(一〇六九〜一〇七三年)に行者を侮辱し、鷲にさらわれ崖の上に置き去りにされた男が、金峯山寺の高僧によって蛙の姿になっ

て降りることができ、高僧の読経によりまた人へと戻ることができたという話が由来とされるユニークな行事です。蓮を蔵王権現に供える蓮華会は1300年の歴史があり、蛙とび行事はその一部として行われます。約2トンの太鼓台を持ち上げ、掛け声とともに急な階段を上るところや、ユーモアのある蛙の動きが見どころで、毎年多くの観光客でにぎわいます。

これからもずっと

保存会は、地元の人を中心に30人ほどで構成されていますが、人手が足りないこともあります。最近では、太鼓台の担ぎ手やSNSやチラシなどで広く募集し、当日には観光客の人にも法被を渡して一緒に参加してもらっています。外国からの観光客が参加してくれることも増えてきました。子ども用の小さい太鼓台もあり、多くの子どもたちが参加してくれました。楽しんで参加してくれる地元の子どもたちが将来引き継いでくれればうれしいです。「蓮華会」と「蛙とび行事」は寺と地元が一体になって吉野山を盛り上げる一大行事です。この行事が末永くつづくよう、これから引き継ぐ人も育てながら、盛り上げていきたいです。



保存会の林さんと水本さん



行って
みよう!

金峯山寺 毎年7月7日
 所 吉野町吉野山 ☎0746-32-8371

関無形民俗文化財については、県文化財保存課 ☎0742-27-8124 FAX0742-27-5386